

社会福祉法人尾道さつき会 尾道福祉専門学校
学校関係者評価委員会議事録

1. 日時 令和3(2021)年11月8日(水) 15:30~16:30

出席者:

課長	久留飛 高成	尾道市福祉保健部 高齢者福祉課
理事長	平石 朗	社会福祉法人尾道さつき会
施設長	久保田 あけみ	社会福祉法人泰清会 サンライズマリン瀬戸
校長	工藤 博道	尾道福祉専門学校
	邑岡 志保	尾道福祉専門学校
	金子 清美	尾道福祉専門学校

2. 場所 尾道福祉専門学校 ZOOMによるウェブ会議

3. 議題

(1) はじめに 校長から学校の現況等説明

- ・この5年間の入学生数と区分について、2020年度は、新卒の入学生は17名、一般の学生は1名、委託生は9名、留年生は1名の計28名の1年生である。2017年度から増加傾向にある。
- ・市別入学者については、2020年度は尾道市から10名、福山市から13名、三原市から2名、竹原市から1名、庄原市から1名である。福山市からの学生数が増加している。

(2) 各評価項目について

1. 教育方針

教育内容の充実、介護現場に即した人材の育成、福祉動向の把握や理解、地域貢献について地域社会から親しまれ、地域に貢献できる県東部唯一の専門学校として、基本方針をとる。

2. 学校の教育目標

広島県東部における介護福祉士養成の中心的な役割を果たすように努める。

3. 重点目標

魅力ある学校づくり、入学生の確保による経営の安定化、外国人の入学に対して、受け入れ態勢の整備を行うことをあげている。

4. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標については、評価項目に対して適切・ほぼ適切な自己評価である。

県東部を中心として介護現場に即した人材の育成を行っている。課題としては、令和2年以降、コロナ禍にあり、現場のとの連携に努められるように感染対策等に尽力していく必要がある。

- (2) 学校運営については、評価項目に対してほぼ適切な自己評価である。2019年度、社協との連携で県東部を中心とした高校の進路指導担当の先生方との会議で福祉の魅力や現状を伝え、また、交流を図ることができ、理解を深めていただく機会となった。2020年度はウェブ会議で引き続き開催した。今後も継続していくことが、福祉の理解を高め、高校生が福祉分野を進路先に選択する後押しとなると思われる。
- (3) 教育活動については、評価項目に対して適切・ほぼ適切な自己評価である。新型コロナウイルスの感染対策として、4月後半から双方向を意識してオンライン授業を開始、6月からは、健康観察や行動記録を毎日行い、3密を避け、学校生活を再開、継続していくことができた。学生アンケートからは、対面授業との比較では、学習成果としては大きな遜色はないとの回答が多かった。課題として、教員間の連携は、オンライン授業ではさらに強化していく必要がある。
- (4) 学修成果については、評価項目に対して適切・ほぼ適切な自己評価である。就職希望者は、全員、地元の福祉施設に就職している。1名、大学に編入学した。国試受験23名全員合格である。令和2年度退学者は、4名である。家族関係による学習意欲の低下、体調不良、人との関係や環境になじめない、不認定科目が多いというそれぞれの理由があった。課題としては、学生個々に対してさらなる細やかな対応を行っていくことである。
- (5) 学生支援については、評価項目に対して適切・ほぼ適切な自己評価である。新型コロナウイルス感染による学生生活支援の給付で学生一人につき5500円の給付、不織布マスクの配布を行った。
進路・就職に関する支援をコロナ禍のため、法人内での人事担当者の講義を実施した。
経済的な支援としては、県の修学資金や日本学生支援機構、また民間保険会社の奨学金に加え、本校独自の施設奨学金制度を設けている。
課題として、介護実習前のPCR検査の機会を確保し、安全に実習体制がとれるように尽力することである。
- (6) 教育環境については、評価項目に対して適切・ほぼ適切な自己評価である。オンライン授業が安定的に行えるように機器の整備を行った。パソコンの入れ替えを行った。視聴覚教室のプロジェクターの入れ替えを行った。
課題として、豪雨災害等異常気象による断水等の対応について検討が必要である。
- (7) 学生の受入れ募集については、評価項目に対してほぼ適切な自己評価である。4月にパンフレットが出来上がり、近隣、近隣の高校等にパンフレットを送付し、5月からの高校ガイダンスの参加やオープンキャンパス開催、10月からの入試という中で、募集活動を行っている。課題として、福山方面の高校等への周知を徹底していく。

- (8) 財務については、評価項目に対して2項目はやや不適切としているが、この項目は2021年度はほぼ適切となる自己評価である。2020年度は、収支差額は黒字になっている。課題として、入学生は30名以上を目標とする。
- (9) 法令等の遵守については、評価項目に対してほぼ適切な自己評価である。専修学校設置基準等を遵守し、適正に運営するよう努めている。課題として、学生の適正な情報発信に対する注意喚起を引き続き行う。
- (10) 社会貢献・地域貢献については、評価項目に対してほぼ適切な自己評価である。新型コロナウイルスによる感染予防のため、地域とのつながりが減少した。課題として、コロナ禍であってもできる方法を検討しながら行っていくことである。

(3) 質疑応答

課長) (3) の教育活動の内容から、2020年度の教員数は何人か。2016年度から2020年度の収支は人件費との関係であるか。

教員) 2020年度の専任教員は3名、非常勤講師は7名である。

校長) 定員に対する専任教員数は定められている。教員の人件費が関係している。

課長) (4) の学修成果の内容から、就職希望者は、全員地元就職しているとの記載があるが、地元というのは尾道市のことと理解してよいか。

教員) 学生それぞれの地元であり、2020年度は、尾道市の就職は10名である。

課長) (6) の教育環境の内容から、202教室に同法人の障害児放課後支援事業所が開設とあるが、説明をしてほしい。

校長) 一時的な場所として法人の事業として児童放課後デイサービスを行っている。現在、新たな開設場所を選定中である。

課長) (8) の財務の内容から、別紙資料の入学者とのすり合わせで1名の違いがあるがなぜか。

校長) 別紙の数差1名は、休学中の学生を加えているためである。

理事長) 新型コロナウイルスのワクチンの接種率かどうか。現場では必要である。事業所により、50%くらいの職員の接種率のところがある。強制はできないところであるが、現状の取り組みや進め方はどうか。

教員) 2年生は全員接種している。1年生は数名未接種であるが、次の実習を見込み、行動の自粛の必要性和合わせ、ワクチン接種の必要性を伝えていく。

校長) PCR検査やワクチン接種について、学生は、理解や行動が非常に素直であった印象である。

課長) 市の病院や保育所等への勧め方としては、難しい面がある。

理事長) 高齢者の家族からは職員のワクチン接種を求められることがある。

施設長としては、管理責任を問われることになるため、引き続き学生に対する啓発活動を行ってほしい。

施設長) コロナ禍にはあるが、福祉や医療関係の実習は受け入れていきたいと思っている。どのようにしたら安全に受け入れができるのか、地域にあるPCR検査センターを活用する

など工夫しながら受け入れを行っていくことが、次世代の人材の確保を行っていく上でも必要なことだと認識している。